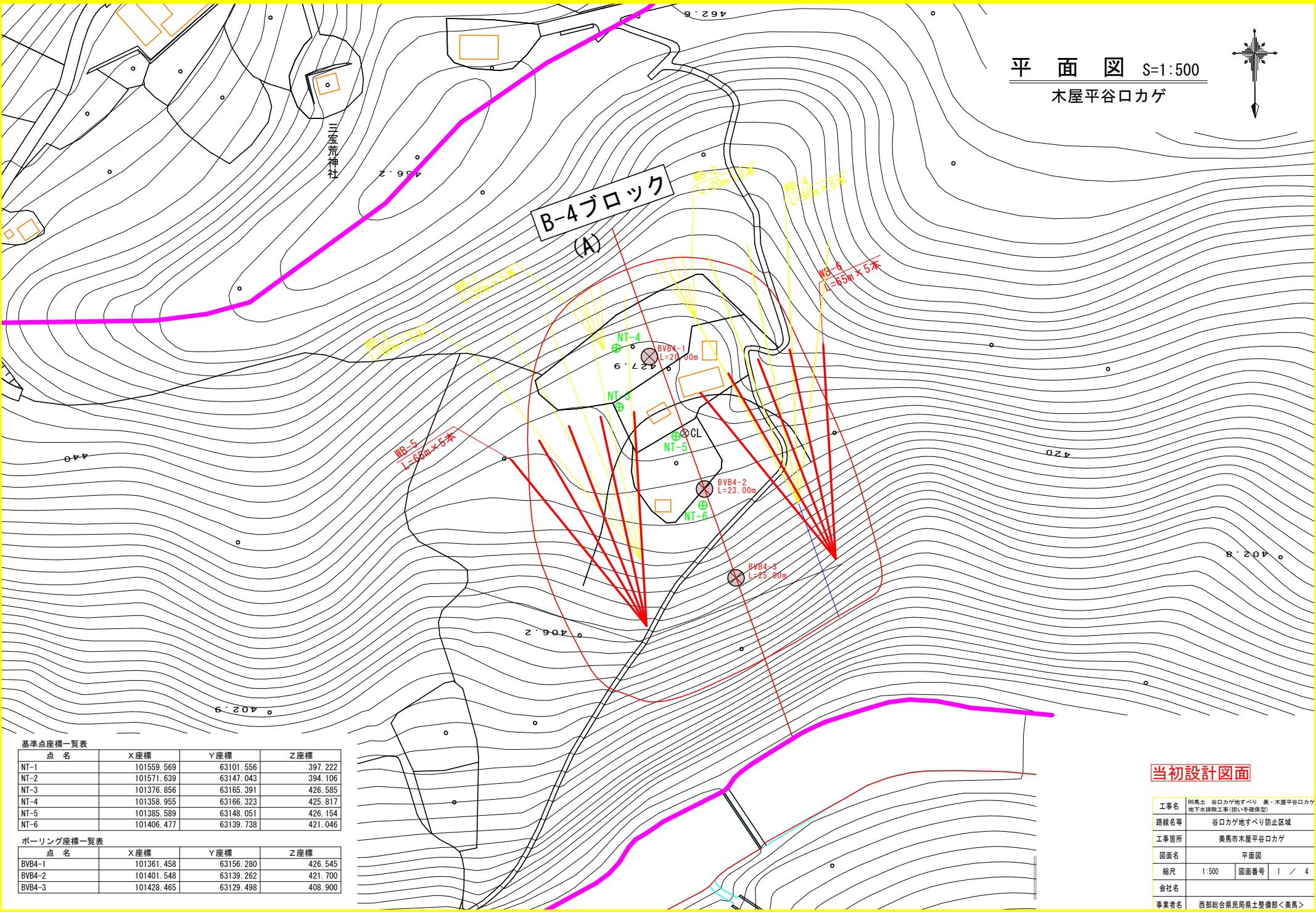
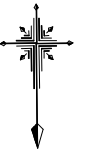


平面図 S=1:500  
木屋平谷口カゲ



基準点座標一覧表

点名	X座標	Y座標	Z座標
NT-1	101559.569	63101.556	397.222
NT-2	101571.639	63147.043	394.106
NT-3	101376.856	63165.391	426.585
NT-4	101358.955	63166.323	425.817
NT-5	101385.589	63148.051	426.154
NT-6	101406.477	63139.738	421.046

ボーリング座標一覧表

点名	X座標	Y座標	Z座標
BVB4-1	101361.458	63156.280	426.545
BVB4-2	101401.548	63139.262	421.700
BVB4-3	101428.465	63129.498	408.900

当初設計図面

工事名	R6馬土・谷口カゲ地すべり 美・木屋平谷口カゲ 地下水排除工事(阻い手確保型)		
路線名等	谷口カゲ地すべり防止区域		
工事箇所	美馬市木屋平谷口カゲ		
図面名	平面図		
縮尺	1:500	図面番号	1 / 4
会社名			
事業者名	西部総合県民局県土整備部<美馬>		

# Bブロック断面図 S=1:250

## 木屋平谷ロカゲ

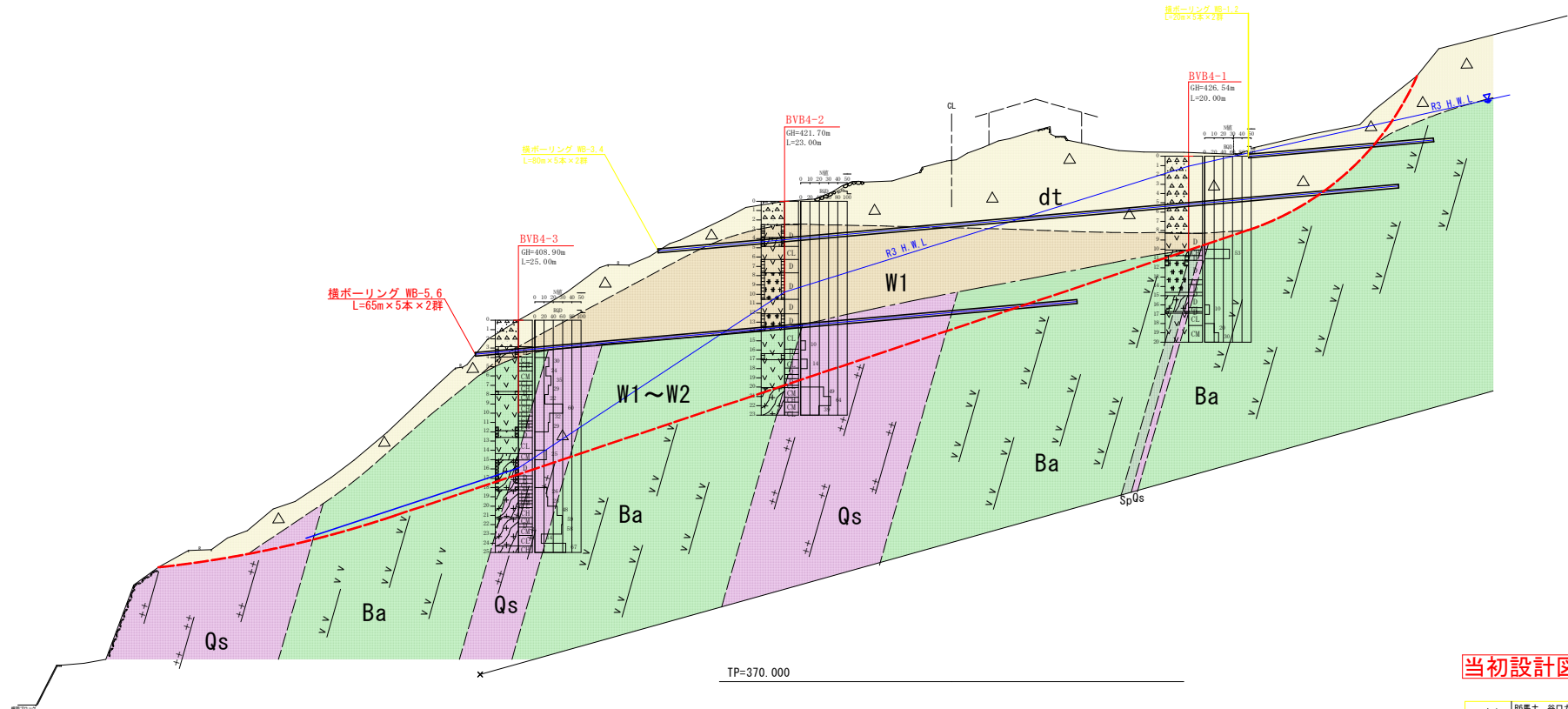
R3H.W.L (R3観測中の最高水位)

— 凡例 —

- 河床堆積物 (Rd)
- 崩積土 (dt)
- 破砕緑色岩主体層
- 緑色岩主体層
- 珪質片岩
- 地質境界
- すべり面
- 地下水位

地すべり地質の区分 (調査明細による)

区分	名称	ボーリングコアの形状・色調	構成地質および性状
dt	崩積土	土砂状 褐色系	いわゆる定露の崩積土にて、礫混じりシルト、礫混じり粘土、および硬質粘土・擾乱粘土などの褐色部、色調は褐色を主色調とする。中期の崩積土はdt <sub>1</sub> 、谷壁中における粘土状の擾乱部はdt <sub>2</sub> 、礫片～礫片状の擾乱部はdt <sub>3</sub> (Disturbed rock) で表示する。
W <sub>1</sub>	油風化岩	土砂状 原岩色系	原岩色系級の粘土・硬質粘土ならびにシルト、および未固結の砂状を呈するもので、粘性土類については「粘結層」を保持し、砂質土の場合は同一の構成土質であることを併記する。この場合、原に色調が褐色である場合は「 <sub>1</sub> 」で表示する。
W <sub>2</sub>	風化 硬砂岩	礫片～礫片状 原岩色系	原岩色系級の礫片～礫片状コア (中・古生層)、あるいはやや細まった礫状コア (第三紀層) として採取されるもので、地表露出ではcracky rock (亀裂に富む岩)、あるいは軟質基盤岩として観察される。この場合、原に色調が褐色である場合は「 <sub>1</sub> 」で表示する。
W <sub>3</sub>	弱風化岩	円板状～塊状 原岩色系	原岩色系級の円板片～塊状コア (中・古生層)、あるいはよく細まった礫状コア (第三紀層) として採取されるもので、地表露出では新鮮な基盤岩として観察される。この場合も褐色系の場合は「 <sub>1</sub> 」で表示する。
Rf	基盤岩	塊状 (完全?) 原岩色系	新鮮な基盤岩にて、岩質のいずれかを問わず塊状 (完全?) として採取され、全体的に硬質なもの。

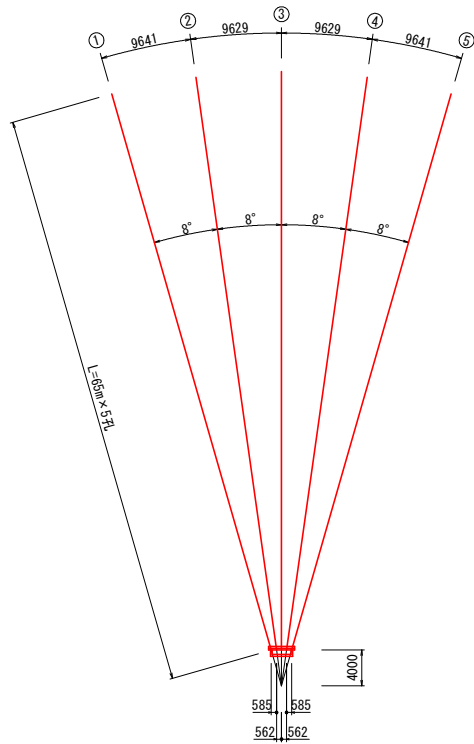


当初設計図面

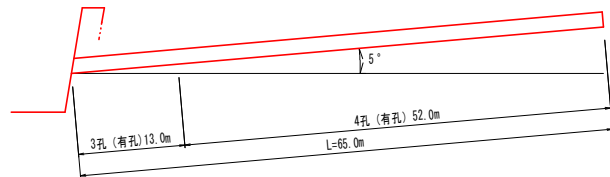
工事名	R6馬土 谷ロカゲ地すべり 美・木屋平谷ロカゲ 地下水排除工事 (阻い手確保型)		
路線名等	谷ロカゲ地すべり防止区域		
工事箇所	美馬市木屋平谷ロカゲ		
図面名	断面図		
縮尺	1:250	図面番号	2 / 4
会社名			
事業者名	西部総合県民局県土整備部<美馬>		

横ボーリング工構造図-詳細図

配置図 S=1/300



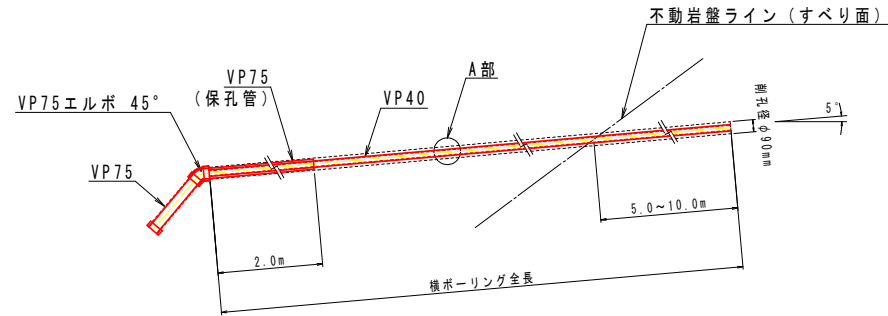
WB-5, WB-6



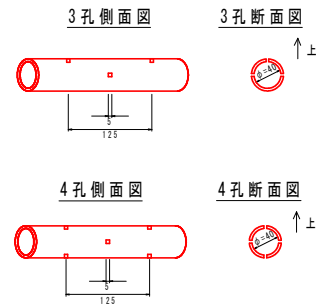
横ボーリング数量表 (m)

孔番号	掘進長 (m)	地質別掘進長 (m)	
		礫混じり土砂	軟岩
WB-5	325.0	295.0 (59.0*5)	30.0 (6.0*5)
WB-6	325.0	295.0 (59.0*5)	30.0 (6.0*5)
計	650.0	590.0	60.0

断面図 S=1/20



A部保孔管 (VP40) 詳細図 S=1/4



保孔管数量表 (VP40) (m)

WB-5	3孔長	13.0*5= 65.0
	4孔長	52.0*5= 260.0
WB-6	3孔長	13.0*5= 65.0
	4孔長	52.0*5= 260.0
合計	3孔長	130.0
	4孔長	520.0

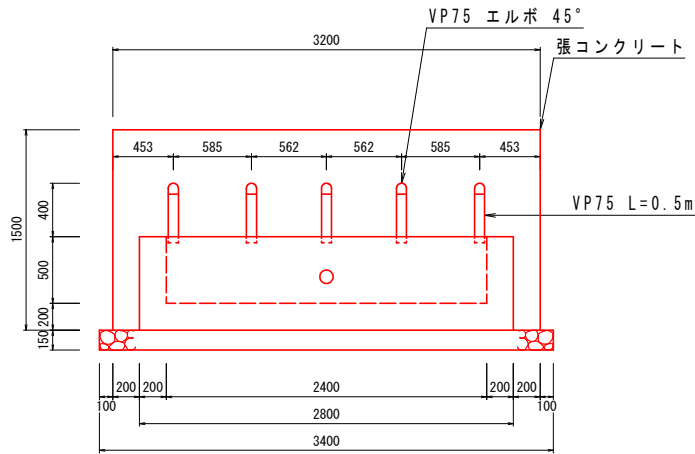
当初設計図面

工事名	R6馬土 谷口カゲ地すべり 美・木腰平谷口カゲ 地下水排除工事 (掘削手続保証)		
路線名等	谷口カゲ地すべり防止区域		
工事箇所	美馬市木腰平谷口カゲ		
図面名	横ボーリング工構造図・詳細図		
縮尺	図示	図面番号	3 / 4
会社名			
事業者名	西部総合県民局県土整備部<美馬>		

# 排水処理施設詳細図

正面図 S=1/20

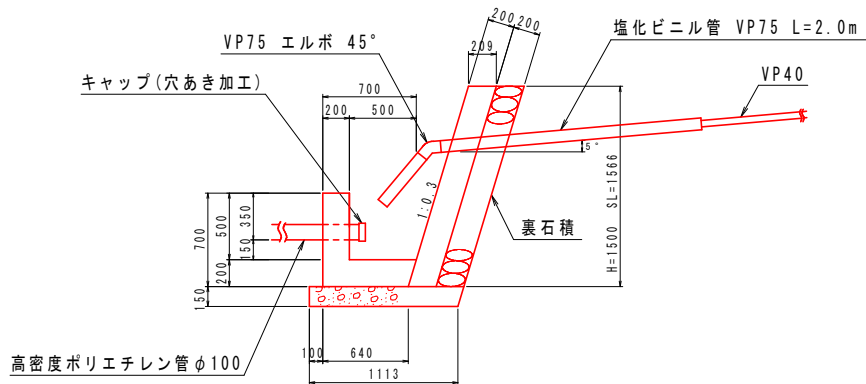
WB-5, WB-6



1箇所当たり

種別	算式	単位	数量
張コンクリート	$0.21 \times 1.50 \times 3.20$	m <sup>3</sup>	1.01
同上型枠	$1.57 \times 3.20 + 1.57 \times 0.2 \times 2$	m <sup>2</sup>	5.65
裏石積	$1.57 \times 3.20$	m <sup>2</sup>	5.02
集水側コンクリート	$(0.85 + 0.64) \times 1/2 \times 0.7 \times 2.8 - (0.65 + 0.5) \times 1/2 \times 0.5 \times 2.4$	m <sup>3</sup>	0.77
同上型枠	$2.8 \times 0.7 + 2.4 \times 0.7 + [(0.85 + 0.64) \times 1/2 \times 0.7 + (0.65 + 0.44) \times 1/2 \times 0.7] \times 2$	m <sup>2</sup>	5.45
基礎砕石	$1.135 \times 3.40$	m <sup>2</sup>	3.86
塩化ビニル管 VP75	$0.50 \times 5 + 2.00 \times 5$	m	12.5
VP75 エルボ 45°		個	5
キャップ	穴あき加工	個	1

断面図 S=1/20



孔口処理工 数量表

箇所	WB-5	WB-6	合計
項目	数量	数量	数量
張コンクリート	1.01 m <sup>3</sup>	1.01 m <sup>3</sup>	2.02 m <sup>3</sup>
同上型枠	5.65 m <sup>2</sup>	5.65 m <sup>2</sup>	11.30 m <sup>2</sup>
裏石積	5.02 m <sup>2</sup>	5.02 m <sup>2</sup>	10.04 m <sup>2</sup>
集水側コンクリート	0.77 m <sup>3</sup>	0.77 m <sup>3</sup>	1.54 m <sup>3</sup>
同上型枠	5.45 m <sup>2</sup>	5.45 m <sup>2</sup>	10.90 m <sup>2</sup>
基礎砕石	3.86 m <sup>2</sup>	3.86 m <sup>2</sup>	7.72 m <sup>2</sup>
床堀	1.0 m <sup>3</sup>	1.0 m <sup>3</sup>	2.0 m <sup>3</sup>
埋戻	0.0 m <sup>3</sup>	0.0 m <sup>3</sup>	0.0 m <sup>3</sup>
塩化ビニル管 VP75	12.5 m	12.5 m	25.0 m
VP75 エルボ 45°	5 個	5 個	10 個
キャップ(穴あき加工)	1 個	1 個	2 個
足場(単管)	7.2 空m <sup>3</sup>	7.2 空m <sup>3</sup>	14.4 空m <sup>3</sup>

排水処理  
高密度ポリエチレン管φ100

WB-5	50 m
WB-6	20 m
合計	70 m

## 当初設計図面

工事名	群馬県 谷口カゲ地すべり 美・木腰平谷口カゲ 地下水排除工事(掘削手続保留)		
路線名等	谷口カゲ地すべり防止区域		
工事箇所	美馬市木腰平谷口カゲ		
図面名	排水処理施設詳細図		
縮尺	図示	図面番号	4 / 4
会社名			
事業者名	西部総合県民局県土整備部<美馬>		